

一九九二年
五月二十五日
発行



第 75 卷 第 3 号 史学・地理学・考古学

論 説

- 中立法制定における「孤立主義者」と
ローズヴェルト政権の対応……………山 澄 亨 (1)
- 元代華北のモンゴル軍団長の家系……………堤 一 昭 (32)
- 権務官禄を通じてみた高麗時代の権務職……………崔 貞 煥 (68)
- 中世都市大山崎の展開と寺院……………仁 木 宏 (101)
——平安～織豊期の都市構造——

書 評

- 中山昭吉著『近代ヨーロッパと東欧
——ポーランド啓蒙の国際関係史的研究——』……………小 山 哲 (136)

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

寺司告朔解」から、同造瓦所の構成員として領二人、瓦工八人、仕丁一人という人数をわります。また、『延喜式』巻三四・木工寮作瓦条から、平安宮木工寮瓦屋の構成員として瓦工四〇人、夫八〇人という数を導き、後者が前者の四々五倍であることを、宮部付属瓦工房と寺院付属瓦工房の規模の違いと考えたのである。

しかし、『延喜式』作瓦条の解釈に関しては、大川清氏が再検討を行ない、それを根拠に平安宮木工寮瓦屋の構成が必ずしも復原できないことがわかった。とすると史料から宮部付属瓦工房の規模を知ることができないことになるが、それを推定できる考古資料がある。相楽郡加茂町にある恭仁宮跡で出土する人名刻印の文字瓦である。

この文字瓦は、天平一二(七四〇)年末一五年の短期間に操業した西山瓦屋の製品で、印を押捺した位置や製品自体の癖から、瓦工の姓や名を表わした刻印とわかる。瓦工名を表示したのは、生産量に応じて賃金を支給する出来高支払制をとったため。なかには、刻印のない瓦もあるが、それは同工(常勤工)の製品で、出来高支払制は主に雇工(臨時工)を対象とした結果である。

以上の前提をもとに西山瓦屋の構成をさぐると、以下の点が明らかになる。西山瓦屋では四〇人前後の雇工が生瓦製作に従事した。彼らは、瓦製作の手間と必要量とを勘案した上で、丸瓦・平瓦という瓦の種類ごとに分業化していた。ただし、各瓦工の生産量にはかなり格差がある。これは瓦工房の業務が生瓦製作だけでなく、窯の火入れなど多岐にわたるためであろう。仮に生産量の最も多い雇工が、生瓦製作期間中は無休でその仕事に従事したとすると、四〇人前後の雇工のうち一二人が常時その仕事に携わったと推算できる。さらに、刻印のない瓦から、生瓦製作に従事する四人の雇工が推定でき、一人の司工の指導のもとで三人の雇工が生瓦製作に携わる体制が復原できる。

バックナンバーのお知らせ

『史林』バックナンバー在庫は次の通りです。

五一巻一〜五四巻五号、五五巻一〜六七巻二号(九〇〇円)。六七巻三〜七三巻三号(一、〇〇〇円)。七三巻四〜七五巻二号(一、二〇〇円)。郵送料は各五二円です。

編集後記

皆様いかがお過ごしでしょうか。七五巻三号をお届けします。よろしく御吟味のほど、お願い致します。本来晩春に発行するべきところ、例によって遅れを回復できず、初夏を過ぎ、早や夏の盛りを迎えました。また手違いにより昨年度大会の御報告と御講演の要旨を、本号になってようやく掲載する不手際と相成りました。合わせて深くお詫び申し上げます。(一)

本誌には文部省科学研究費補助金研究成果公開促進費が交付されております。

一九九二年四月二五日印刷
一九九二年五月一日発行 定価二〇〇円
送料五二円

史林 第七五巻第三号(通巻第三七三号)

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

発行人 史学研究会

振替京都七一五二五番
理事長 竺沙雅章

京都市下京区七条御所ノ内町五〇
印刷所 中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. LXXV No. 3 May 1992

CONTENTS

Articles :

- YAMAZUMI Toru: The Ideas of Isolationists and the Actions
of the Roosevelt Administration in the Process of the
Legislation of the Neutrality Acts (1)
- TSUTSUMI Kazuaki: The Genealogy of Generals of the
Mongolian Army in North China during the Yuan Dynasty..... (32)
- CH'OE Chong-hwan: The Kwõnmu (權務) Posts in the Koryõ
period (年一年) as reflected on the Kwõnmu Stipend (68)
- NIKI Hiroshi: The Development of the Medieval City of
Õyamazaki and Temples..... (101)
—The City Structure from the Heian Period to
the Azuchi-Momoyama Period—

Book Review :

- NAKAYAMA Akiyoshi: Modern Europe and Historical
Eastern Europe (KOYAMA Satoshi)..... (136)

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386—9369